

中学基礎がため100%

できた! 中2国語

読 解

別 冊
解答と解説

→ていねいに引っぱってください。別冊解答になります。

- 難しい問題には解説がついています。よく読みましょう。
- **例**は、自分で言葉を考えて書く問題の解答例です。
同じような意味であれば、解答と全く同じ答えでなくても正解です。
- 別解は、()の中に示してあります。()の中の答えでも正解です。

KUMON

一章 説明文

1 指示語

基本問題 ①

P.4

1 確認

★

薬局

1

ものさし

くつ

赤レンガの建物

棚の上の葉

P.5

2

1

駅

深海

川沿い 小さな公園

花で飾られた門

新しい図書館

待ち合わせ場所 公園

父の故郷

北海道

君の家

赤い帽子

アメリカ

一章 説明文

1 指示語

基本問題 ②

P.6

1

1

子供の頃に家族で箱根に行ったとき

学校 運動会

みんな 動物園

直径一メートルはあろうかという大きな

P.7

2

1

(2) 遊園地の入園料が中学生から大人料金
(3) 勘を頼りに勉強をする

(1) 二人とも相手の言葉が信用できない

(2) 子供が欲しがる物

(3) 大声でわめきちらすとやがて泣き始める

(1) カツオやマグロ

(2) 人間が存在するから世の中の物が存在するのだと

いう

(3) 日本の公用語をフランス語やドイツ語にしようという意見

一章 説明文

1 指示語

基本問題 ③

P.8

1

1 大きな木

2 評判の美人や歌舞伎役者たちのブロマイド

3 植物自身が出す老廃物

4 自分の役割

1 雑木林、畑、田んぼ、川、ため池

② 長い年月をかけて、人の手が加えられてきた（前に「長い年月をかけて、」がなくても正解。）

2 攻撃的な知性

3 海へは入らない

例 十字架の片一方をかつぐ

解説 「十字架の片一方をかつがせた」は、文意が通らないので正解ではない。

一章 説明文

1 指示語

標準問題

P.10

1

ラッシュに任せる

パークアンドライド

歴史と文化、新しい問題

イ

P.11

2

(1) (4) (3) (2) (1)

無知の自覚

「これ」の部分に答えをあてはめて、文脈が通るか確認してみるとよい。

(3) (2) 「私はもうくっている人

イ

解説

何ができないと学びが始まらないのか。前の部分に着目して答える。

(4) 生きて暮らして 師

解説

直前の三文に着目する。「会ったことのない人を『師』に見立てることも可能」であるように、「生きて暮らしていれば、いたるところに師あり」なのである。このような状態になるためには、日頃(ひごろ)からアンテナの感度を上げる必要がある、という内容を読み取る。

P.12

確認

★

(2) (1) 天気が気がかりだ
(2) 中止になった

一章 説明文

2 接続語

基本問題①

P.13

1

1

2

3

4

1

2

3

4

ウ

ア

ア

イ

ウ

ア

ウ

イ

P.14

1

1 復活させた 高性能 線路を敷設

2 役に立たない 貴重な

1 ふわふわ 削る前

(2) (1) イ

2 野生動物 子グマ

(2) (1) ウ

解説

「ただし」は、前に述べた事柄(こと)の補足説明を示している。

P.15

2

1 役に立たない 貴重な

2 ふわふわ 削る前

1 野生動物 子グマ

(2) (1) ウ

P.16

1

1

2

1

ウ

イ

イ

一章 説明文

2 接続語

基本問題③

P.17

- ⑥ ア ⑤ ウ ④ イ ③ イ ② ウ

P.18

一章 説明文

2 接続語

標準問題

- ① A イ B エ
② ウ

解説

線部は、「絵は写生が基本である。想像で描く作品のほうが少ない。」ということ指着して、これの「逆」だと述べている。

P.19

2

- ③ ① 大量生産 ② イ
② I には「ところが」が入る。

解説

- ① A イ B ウ
② 愚かな行為 頑固なおやじ
③ 年がいくと

解説

「I」の一文中的「この構図」は、「岩の上のリーダーと海の中の若いサルたちの構図」を指す。

P.20

確認

- ★ ① 欧米

- ② 一発ずつの花火をじっくり鑑賞できる打ち上げ方法

一章 説明文

3 内容の理解

基本問題 ①

P.21

- ③ ② ① クマ
② 人間
・光のじゅうたん ・光の海
(1) 皇帝や国王に謁見した臣下が退出するときの
最初の一文に着目する。

解説

- (2) 対面した両者の間に危機的な緊張が存在する

P.22

一章 説明文

3 内容の理解

基本問題 ②

- ② ① 人の「知性」の「知性」
② イースター島
(「絶海の孤島」でも正解。)

解説

- (2) 有限の資源

- A ウ B ア C イ D ア

解説

Aは、直前に「モアイを作った」とあることから答える。Bは、直前の「バナナや……などの」からわかる。Cは、第二段落の最後の一文に「木がなくなつたため」とあることや、Cの消滅は、すぐあとに書かれた表層土壌の流失の原因になつたことに着目して答える。Dは、文頭の「こうして」が指し示す内容を考えて選ぶ。

P.23

3

- (2) ① 幾つもの視点
A 一視点画 B 多視点画

解説

小学校の低学年や幼児の絵が、高学年になるとどう変わるのかを考える。「弥生の絵は、小さい子供の

絵とよく似て」いるとあり、また、「弥生の絵は……多視点画と呼ぶことができ」とあることから、小学校の低学年や幼児の絵が、弥生の絵と同じく多視点画であることをとらえて答える。

一章 説明文

3 内容の理解

標準問題

P.24

1

(1) 自分の「心」

(2) A ア B イ C イ

解説

気に入った服を着るためには、おなかは「全然すかない」という、心と体が分離した心理状態を読み取る。

(3) 全く別々のもの

解説

一つ前の文から探す。

(1) それは、誰も見

A ア B イ C イ

(3) 似ているけれども異なっている

比較して

解説

第二段落をよく読む。「ある事柄について考えると、き、……いっそう深まることがある。」という一文に着目する。

P.25

2

P.26

確認

一章 説明文

4 段落の要点と文章構成

基本問題①

★ (1) エ夫 きれいな川 十年 ホタル

P.27

▼

(2) ア
1 1 ウ
1 1 イ

2 2 イ
2 2 ウ
3 3 ア

一章 説明文

4 段落の要点と文章構成

基本問題②

P.28

1

(1) (1) 段落 屋根飾りのついた楼閣の絵 珍しい 社会の仕組み

(2) 段落 階級 支配者

P.29

2

(1) (1) 段落 立ち止まったままで話しかける
(2) 段落 クマの行動を刺激しない 話しかけられることへのとまどい

(2) ウ

P.30

1

一章 説明文

4 段落の要点と文章構成

基本問題③

(1) イ

解説

1 段落ではカタカナ語が分かりにくいという高齢者の嘆き、2 段落では英語圏出身の外国人の指摘が紹介されている。

(2) 要は、物事

解説

「要は、……と思います。」という表現に筆者の考えがまとめられている。

(3) (1)・(2) ウ (3) イ (4) ア

P.31

2

(1) ウ

解説

花火が消える時の余韻^{よゐん}やはかなさなど、消えることとで完結する芸術について述べている。

(2) ウ

解説

①段落では「花火が消える時」の様子について述べ、②段落では「一発のできれば」以外の花火の魅力について述べている。

(3) ウ

解説

華やかさとはかなさ 高い技術
筆者の最も言いたいことは、この段落に書かれている。

(4) イ

解説

①・②段落では花火の魅力について述べ、③段落では筆者の意見を述べている。

P.32

1

一章 説明文

4

段落の要点と文章構成

標準問題

(1) 路面電車 人 環境

(2) デザイン上の工夫

(3) クリーン

・経済性

解説

段落の初めの言葉に着目する。②段落「まず」、③段落「次に」、④段落「さらに」に着目すると、④段落は、新しい路面電車は長所をもっているという①段落で述べたことの具体的な説明を三つ述べていることがわかる。また、⑤段落の初めの「このように」は、前の段落を受けてまとめて述べることを

P.33

2

(1) 表す言葉。

解説

「ぼくは日ごろから……と考えている。」の一文に、筆者の考えが述べられている。筆者の考えや主張、文章の要点が述べられた文が中心文である。

(2) 「障害者」

(3) 物理的な壁

(4) 心の壁

解説

①・②段落では、環境の不備による物理的な壁がなくならない、体の不自由な障害者の障害がなくなることが述べられている。③段落では、その話題を進めて、物理的な壁を取り除くには、人々の障害者・高齢者に対する心の壁を取り除くことが大切だと述べられている。

P.34

確認

★

一章 説明文

5

筆者の意見と要旨

基本問題 ①

(1) 心のバリアフリー

(2) また一人、

(3) 心の壁 慣れ

P.35

1

(1) 水田は空気

(2) 動物たちが

2

学力を「学

解説

かぎカッコ(「」)も一字に含めて答えることに注意する。

一章 説明文

5 筆者の意見と要旨

基本問題②

P.36

1

1 自然 理解 適応 ガイアの知性

2

かけがえのない 誇り

2

1 イ

解説

敬語が少ないと思われるがちな英語にも、別の形で敬意を表す表現がある。一方、現代の日本人は、敬語を失ったにも関わらず代わりの表敬表現を添えるのを忘れているのではないかと、筆者は述べている。

2

ウ

解説

最後の一文に、筆者の伝えたい内容が書かれている。

一章 説明文

5 筆者の意見と要旨

標準問題

P.38

1

(1) 名君 年寄った 行動

(2)

非常に保守的

(3)

ウ

解説

筆者は、最も優れた年寄りのサル「カミナリ」を例にとって、その「カミナリ」ですら新しい行動は開発できないことを述べている。

P.39

2

ア

(1)

静かにだいたいな話 雰囲気 周りの人たち 共感

(2)

恥ずかしい 周囲の共感 失敗

解説

最後の段落に筆者の考えが述べられている。「恥ず

一章 説明文

たしかめよう

完成問題①

P.40

▼

(1)

A E B イ

解説

B のあとでは、前に述べた三つの方法に加えて他の方法を説明している。

(2)

ア

(3)

② 原語の意味「翻訳借用」

(4)

③ アルファベットの用いる方法

(5)

単純借用

解説

原語を日本語ふうの発音に直すだけで、そのまま用いることを「単純借用」という。

(6)

和製英語

(7)

イ

解説

最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんなものがあるのかという話題を示し、第二段落以降で具体的に説明している。

(7)

ウ

解説

単純借用、翻訳借用、転用、アルファベットのそのままだけの方法、和製英語、以上五つの方法があげられている。

P.42

(1) エ

解説

のあとで前と同じ内容が言い換えられているので、言い換えの「すなわち」が入る。

(2) ア

(3) イ

解説

次の段落で、その「雰囲気」が説明されている。

(4) 人間が、どう

(5) 示唆

解説

「示唆」とは、それとなくものごとを示すこと。筆者は、鯨や象が「なにかとてつもなく大切なもの」を人類に教えてくれるために存在し続けているのではと考えるようになったというのである。

(6) 年長者から生きるためのさまざまな知恵を学ぶ

解説

理由を問われているときは、本文中の「くから」「くので」「くため」などの表現に着目する。ここでは、段落の最後で「ゆっくりと成長するのだろう」とあり、その直前に理由が書かれている。

(7) 6

解説

各段落の要点をつかんで大段落に分ける。5段落では、前段落の「畏敬の念」が説明されている。

書いてみよう

例

人間と象や鯨が、同じような大脳新皮質の大きさを持ち、

同じような成長過程をたどることを知って驚いた。象や鯨も、私たちのように、いろいろな出会いを経て経験を積み成長していると思うとても興味深い。(九十六字)

二章 小説

1 場面をとらえる

基本問題①

P.44

確認

★

時 夕方

登場人物

男の子 お母さん

できごと

ハンカチ 色 プリント

1 夏 敏也

2 イ

解説

「背広に黒いネクタイを締めている」ようなかっこうをするのはどんな時か考える。

P.45

2

1 防空壕

2 ア

3

夜明け

※一日の中のいつかは、「少し白み始めた空」という表現から推測される。

・ 四「4」と書いても正解。

・ 金木犀の巨木

二章 小説

1 場面をとらえる

基本問題②

P.46

1

1 発音

2 曲芸

2 ア

解説

少年が、無線機を使って、ハッチャアウトについて紺野先生にたずねていることから読み取る。

3

1 僕 ぐうちゃん

2 メロス 荒れ狂う波

解説

「荒れ狂う波」を、「百匹の大蛇」と答えないこと。「百匹の大蛇」は、「荒れ狂う波」のたとえであって、メロスが実際に闘った相手ではない。

4

サチ イタドリ 初めて

二章小説

1 場面をとらえる

基本問題③

P.48

1

(1) (Aの場面) 部屋の中

(Bの場面) 草の中

(2) 例 白熊のような二匹の犬

(3) ウ

解説

「にゃあお」といった鳴き声や、犬から逃げることから読み取る。

P.49

2

(1) 夏

解説

線部は、芋畑に青々とした葉が一面に波打っている様子を表すので、季節は夏である。

(2) あぜ道 ヒロ子さん 芋畑 夢中

(3) ① 艦載機

② 大きな石

③ 芋畑の中に倒れ込んだ

二章小説

1 場面をとらえる

標準問題

P.50

1

(1) 春夏

(2) ウ

(3) 居間

(4) エ

解説

フックが死ぬ間際の鳴き声である。

解説

「身じろぎ一つしていない」という表現などから、「死」を読み取る。

P.51

2

(1) ① 七月三十一日の夜

② 芋畠 露天の壕 待避

(2) 手をついて農夫に詫びた

(3) 背中 母

(4) ア

解説

清太、節子、農夫、お巡りの四人。

(野坂昭如著「火垂るの墓」(新潮文庫刊「アメリカカひじき・火垂るの墓」所収)より部分転載)

P.52

確認

★ (1) さびしい

(2) イ

(3) イ

① 面白くない

② 怖かった

③ 恐怖

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題①

P.53

1

① 面白くない

② 怖かった

③ 恐怖

2

(1) 命令口調 鳥

解説 「しぶしぶ」は、いやいや行う様子を表す。

(2) ア

解説 あとで「文句を言っていた」とあるので、不本意な仕事とされていることがわかる。

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題②

P.54

1

1 イ

2 ア

解説

線部は、「もう逃げられない」と悟ったときの苦しそうな笑いである。

P.55

3

1 ウ

2 ア

1 イ

解説

自分たちが食べられるという状況にあることに気づいたときの心境を考える。

2 ア

解説

「ため息をつく」は、失望や心配のときもあるが、ここでは感動を表す。「口に含むと甘い香りが体じゅうにしみわたる」から、お菓子に対する感動であることを読み取る。

4

渡し舟 学校 チャボの卵 孵る

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題③

P.56

1

(1) イ

2

(1) ウ

(2) (1) あまりのこ

(2) 明るくなった

(3) 夢から覚めた

(4) 希望

解説

夕日によって葉や枝が燃えるばかりに輝いている様子が、メロスの希望にあふれる気持ちを象徴している。

4

(1) ア

解説

「せっかく女子が旋盤やつとるんやから」を受けている。「女子」だとなぜ「決ま」るのか、つながりがわからなかったのである。

(2) イ

解説

「ざらざら」とは、なめらかでないこと。素直に喜べない気持ちを擬態語で表している。

P.58

1

(1) イ

解説

二人に話した理由は、「馬も飲んでしまっただけ……本当だったらきれいだろうなと思ったから」と書かれている。だますつもりはなく、おもしろさや

二章小説

2 心情を読み取る

標準問題

P.59

2

感動を共有したかったのである。

(2) ウ

【解説】 友達から「信じない」と言われた「僕」は、「そう言われればそうだ」と思っている。

(3) ウ・エ（順不同）

【解説】 「ぐうちゃんに僕の人生が全面的にからかわれた感じ」がしたこと、「僕までほら吹きになってしまった」と思っていることから、「僕」の気持ちを考える。

(1) ウ

くやしい

(2) ア

【解説】 兄やんがサチに「見なかったことにしろ」と言っていることに着目する。そのためには、見ていたことをテツオに知られては困るのである。

(4) のけ者 山

【解説】 兄やんの「こんなことが……テツオはのけ者にされる。もう、山にもこれなくなる。」という言葉から、気持ちを読み取る。

P.60

確認

★

【彼】 弱虫

ヒロ子さん

五 大柄 勉強

二人の共通点

東京

二人の関係

かばって

二章小説

3 人物像をつかむ

基本問題①

P.61

1

① 同級生 細長い 小さく丸い

2

② 小学六 ゴルフ

(1)

(1) ハンディ 魅力 抜き差し 夢中

(2) イ

【解説】 「心のがんばりが自然と周りに浸透していった」とある。

3

イ

4

三 十 十 故郷

二章小説

3 人物像をつかむ

基本問題②

P.62

1

① 里穂 豊 久 末っ子（「豊」と「久」は順不同）

【解説】 「私」は、末っ子の詩穂である。

2

② 人見知り 女子校 あこがれていた

3

③ いつも大事に

4

④ サチのうし

(1)

(1) おれは、もう生涯、犬を飼うのはやめろぞ。

(2)

(2) 例 かけがえのない

（「非常に大切な」「生涯忘れられない」なども正解。）

二章小説

3 人物像をつかむ

基本問題③

P.64

1

① 筆まめ

【解説】

「筆まめ」は、手紙や文章などをめんどくさがらずによく書く性格をいう。

P.65

2

② 暴君 照れ性

3

(1) 単純
イ ウ

解説

二人の紳士は、動物を撃ち殺すことを喜び、楽しみとしている。生き物の命を何とも思っていないのである。また、飼い犬が死んだことを金額で表していることから「計算高い」ともいえる。

4

横暴 言い訳 うそ

解説

兄の行動や、兄と妹の会話文に着目する。

P.66

1

(1) 母親の弟 ぐうたら

解説

「僕のおじさん」は、「母親の弟」で、僕の家で「ぐうたら」しているから、「ぐうちゃん」というあだ名になったと書かれている。

(2) 怒るけど「〜ているから」

解説

直前の「〜から」に着目する。

(3) 力仕事

(4) ア

解説

「ぐうちゃん」は、母に怒られてもぐうたらな生活が続けており、社交的な性格とはいえない。ちょっと「変わった」、マイペースでのん気な人なのである。「僕」の家においても、本を読んだりカメラの掃除を

二章小説

3 人物像をつかむ

標準問題

P.67

2

(1) ウ したり、自由気ままな生活を送っている。

解説

智は、六年生の自分と「入れ替わって五年生でた一人ベンチ入りした長尾君にも笑顔で接する」ことができるような素直な人物である。アは、自分が犠牲になっているわけではないので誤り。

(2) 負けず嫌い

(3) 高校時代 頑張る

解説

頑張ればいいことがある、とは言えないのは、徹夫も高校時代「必死に頑張っても「報われなかった」ことがあるからである。

(4) イ

解説

智と徹夫は正反対の性格であることをおさえる。

二章小説

4 表現に注意する

基本問題①

P.68

確認

★

[直喩法]

猫の目 宝石

[隠喩法]

白い羊

[擬人法]

花

(3) 返事 整った ワープロの文字

(4) ウ

1

逃がした小鳥

2

息づいている

(1)

焼き立てのクッキー

(2)

目が覚める

P.69

4

P.70

1 ア

2 少年はタオ

3 体言 体言止め

解説 名詞や代名詞を「体言」という。

4 バケツ

解説 いろいろな食べ物を投げ込まれて、「幸福な胃袋」の

ようであるのは、「土のバケツ」である。直喩法は、「くように」「くみたいに」などを使ったとえる表現技法で、ここでは、「土のバケツ」を胃袋にたとえている。

5 ヒロ子さん

（「ヒロ子」でも正解。）

6

1 ア 2 エ

解説 ①は「スコップの土をかお音」、②はスコップに小

石が当たる音。

2 ① ア ② エ ③ イ

P.72

1

(1) 雲 海風 かけひき

(2) イ

解説 「鋭角」とは、直角より小さいするどい角度のこと

また、するどいことのたとえ。「鈍角」はその反対の意味である。「凍りつく冬」の波頭の冷たい、厳しい

P.73

2

(5) (4) (3) 風

白ウサギの跳躍

解説 激しい風によって白い波が立つ様子をたとえてい

(1) くしゃくしゃの紙くず

(2) ウ

(3) ① 二匹 犬

② 白熊

③ ふっふっ

(4) イ

イメージに合うものを選び。

P.74

確認 ★ イ

解説 「兄やん」が、テツオやシュンちゃんから小さなイ

タドリを受け取っていることなどから読み取る。また、初めてイタドリをとった妹への思いやりを読み取る。

1

1 ア

解説 育海は、前半で兄に対しての不満を述べているが、

後半ではこっけいな兄の姿を温かく思い描いている間に「それにしても」とあることに注意して考える。

2 イ

P.75

【解説】最後の一文に「朗らかな心持ちがわき上がってくるのを意識した」とあることに着目。
2 与えてる クリスマスプレゼント

二章小説

5 主題をとらえる

基本問題②

P.76

1

(1) お父さんは死んでしまった

【解説】

次の段落に「お父さんは死んでしまったと、つくづくよく分かりました」とある。

(2)

① ア ② ウ

【解説】

少年にとって防空壕は、お父さんと話ができる唯一の場所であった。少年が防空壕を大切に思うのは、お父さんとのつながりを失いたくないという、お父さんをしたう気持ち(①)からで、その防空壕を失った少年は、悲しみ、孤独感(②)に包まれる。

P.77

2

(1) イ

【解説】

少し後に「信じさせてやりたい」と書かれている。ただ、そのためにどうすればいいのかが、分からないのである。

(2) イ

【解説】

徹夫の「でもなあ、レギュラーは無理だと思うぞはつきり言って」という言葉にもあるように、両親は野球部に入っても活躍できないと思い、他のスポーツを勧めていることが分かる。

(3) ウ

【解説】野球部でいいのかとたずねる両親に対し、「僕、野球好きだもん」という拍子抜けするような言葉を聞き、徹夫は言葉に詰まっている。

二章小説

5 主題をとらえる

標準問題

P.78

1

(1) ・信じられている
・恐ろしく大きいもの

【解説】

(2) ア

【解説】

メロスは本来、約束の時刻に間に合い、セリヌンティウスの命を救うために走っている。しかし、線部では、「間に合う、間に合わないは問題でない」「人の命も問題でない」という、結果を考えない境地に達している。

P.79

2

(1) (3) ア

【解説】

地下で頑張っている足腰
生々しい生き物としての存在感
土の上に出ていた花の可憐さより、その下の根がもつ強い力に雅之君は引きつけられている。

(3) イ

【解説】

雅之君は、ホームレスのバンさんに、植物の上の部分だけではなく、「地下で頑張っている」根に目を向けること、そうすることで物を見る「目が新しくなる」ことを教えられる。この文章では、バンさんとの出会いによって、雅之君の植物を見る目が変わ

ったことが描かれている。

二章小説

たしかめよう

完成問題①

P.80

- ▼ (1) A ア B イ C ウ

解説

Aは、「運動ときたら学業以上の苦手」という「僕」が、駆け回るのにふさわしい言葉を選ぶ。Bは、「心配する」という気持ちを表す言葉を選ぶ。Cは、いろいろな思いがけないものばかりが飛び出す様子にふさわしい言葉を選ぶ。

- (2)

- ① 鉄筋コンクリート三階建ての校舎
② ウ

解説

学業も運動も苦手で、特技もない。人から好かれる性質でなく、不良少年でさえない。先生からも冷たい目で見られている。このような「僕」が学校によいイメージをもっていないのは当然であろう。校舎が、暗く、陰気な建物に見えたのは、そのためである。

- (3)

- ・全くとりえのない生徒
・全く人好きのしないやつ

- (4)

解説

「…でさえなかった」という表現に着目する。

- (5)

イ

書いてみよう

例

「僕」は、とりえのない生徒で、学校生活も楽しくなさ

そうだ。しかし、そんな状況にあっても「まあいいや、どうだって。」と考える「僕」に共感を覚えた。(七十二字)

二章小説

たしかめよう

完成問題②

P.82

- ▼ (1) A イ B エ C ア D ウ

解説

浩のひろ小刀：よく光る…丸刃まるば↓失敗
宗一のそういち小刀：縁ふちだけ光る…平ら↓成功

- (2) a

- (3) イ

解説

線②の直後の「宗一に見せる」に着目する。

- (4) 嘘の後始末の仕方

解説

浩はこのとき、傷の手当ての仕方を聞きたかったわけではないことに注目する。

- (5) 緊った気持

解説

水に混まじった血の流れのように揺れ動くものと対比されているものを探す。

- (6) ウ

解説

小刀のとき方でも、弟への対応の仕方でも、兄にはかなわないと浩は思っているのである。

P.83

P.84

三章随筆

筆者の体験や思いを読み取る

基本問題①

確認

★

体験

ヒトデ

表現

おもちゃ

筆者の思い 妙な感動

1 人間全体 反映 美しい 正しい

(「美しい」「正しい」は順不同)

解説 筆者は、まず自分の考えを述べ、最後の二文で、

そのように考える理由を述べている。

P.85

3

- (1) 吟味された言葉
(2) 心からおもしろい 骨格
(3) 血と汗と涙の特訓
ウ

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る

基本問題②

P.86

1

- (1) ・燃えるようなオレンジ色
・ピロッドのような光沢
解説 「…ような」という表現に着目しよう。比喩(直
喩)表現である。

2

- (1) 不思議なほ
(2) 強さ 落ち着いている
目と心を吸い込むよう

解説

目が離せなくなり、強く心を奪われていることを
「目と心を吸い込むよう」とたとえて表現している。

P.87

3

- (1) 社会の罰を受ける怖さ 逃げる
(2) イ
(3) イ

解説

最初の段落にもあるように、「逃げる」ことは社会

的には「臆病者」と呼ばれることなのである。

(4) 命を捨てない 社会

解説 最後の一文に、筆者の考えがまとめられている。

P.88

1

イ

解説 「何でも一度なくしてしまうと、元には決して戻ら
ない」「何と多くの物をなくし、何と多くの事々を忘
れ去ってきたことか……」から考える。

P.89

2

- (1) 言葉や様子 だいじ
(2) 在り方 生き方(順不同)
(3) 例 毎日毎日の体験に感激を持てなくなり、非常に倣
慢になってくる。
(4) 自分たちがいけるんだ
(終わりの五字は、「っていける」でも正解)
(4) 無力感 真剣 だいじ

P.90

▼

- (1) 妹は、まだ字が書けなかった。
(2) 情けない黒鉛筆 小マル
(3) ウ
(4) ア

三章 随筆

たしかめよう

完成問題①

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る

標準問題

P.91

- (5) ・はだして表へ飛び出した
・やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた
- (6) イ
- (7) ア・カ（順不同）

P.92

三章 随筆

たしかめよう

完成問題②

- (1) ① 上気したような、えもいわれぬ色
② 直前 桜の皮

【解説】志村さんの「桜から」という答えを聞いて、筆者は「桜の花びら」を思ったが実際は違ったのである。

P.93

- (3) (2) ① 樹木全身（「大きな幹」も正解。）
② ウ

【解説】筆者が、「言葉の一語一語は、桜の花びら一枚一枚だ」といっていい」ととらえていることに着目し、どのような点が共通しているのかを読み取る。

書いてみよう

【例】言葉とは、その人の中身が外に表れるものだと思うので、「美しい言葉、正しい言葉」は、その言葉を発する人の美しさや正しさが表れているのだと思う。（七十字）

四章 詩

1 詩の種類・表現技法 基本問題①

P.94

確認

★ 詩の種類

- (1) 口語 (2) 自由
(3) 口語自由詩

P.95

▼ (1)

- ① 文語詩
② 定型詩
③ 七五調 五七調
④ 文語定型詩
(2) うれひは青し空よりも。

【詩に用いられている表現技法】響いている

P.96

四章 詩

1 詩の種類・表現技法 基本問題②

1

(1) 四

【解説】一行空きて、四つの部分から成っている。

- (2) ア・エ（順不同）
(3) ア

【解説】五音七音から成る言葉が多く、調子がいいが、各行のリズムが決まっているわけではないので、形式的には自由詩である。

(4) 体言

(5) 青空ね、／風のぶんぶの音アしてる。

【解説】「青空」が視覚によって、「風のぶんぶの音」が聴覚によって感じ取った内容である。

P.97

2

- (1) 口語自由詩

- (2) ① ウ
 (3) ② イ
 (4) ア
 (3) ア
 (4) イ
- 【解説】「でしょね」「でしょうか」という表現に着目。

P.98

確認

第四章 詩

2 詩の鑑賞

基本問題①

- ★ (1) ア
 (2) 停めること 好く生き

- (1) 写真の前に挿した桜の花かげに
 (2) (白) ∴ 死の床 歯
 (トパアズ色) ∴ 香氣
 (青) ∴ 眼
 (ピンク) ∴ 桜
 (黄色) ∴ レモン

P.99

▼

- (3) ア
 【解説】レモンを噛む智恵子との思い出を通して、智恵子への愛をうたっている。

P.100

1

第四章 詩

2 詩の鑑賞

基本問題②

- (1) 5
 【解説】体言止めになっている部分に着目する。
 (2) 空 海 世界 季節 友だち

- 【解説】第一連の五つのものを指している。「まだここからは見えないだけ」なのは何か考える。

- (3) ウ

【解説】「胸の奥で／ことはがはぐくんでいる優しい世界」も「次の垣根で／蕾をさし出している美しい季節」も「少し遠くで／待ちかねている新しい友だち」も、今はまだ見えていないだけで、きっとこれから出会えるという、希望に満ちた詩である。

- (1) 名も知らぬ遠き島

- (2) イ

【解説】椰子の実は「故郷の岸を離れて」ただよってきたが、「われもまた」そうだというのである。

- (3) 故郷 椰子の実
 (4) 異郷の涙
 (5) イ

P.101

2

P.102

確認

第四章 詩

3 短歌

基本問題①

- ★ 初句…たちまちに
 二句…君の姿を
 三句…霧とざし
 四句…或る楽章を
 結句…われは思ひき
- 1 (1) 初句…五 二句…七
 三句…五 四句…八

P.104

1

四章

1

詩

3

短歌

基本問題②

1

A

イ

B

ウ

解説

Bの「…ごとし」は「…のようだ」という意味の直喩表現。

2

薔薇の芽の針 春雨

3

足乳根の

P.103

2

初

(1)

解説

「通釈」の句点の位置に着目する。「ふるさとの海が恋しい。」に句点があるが、これは短歌では初句の「海恋し」にあたる。

3

(2)

(1)

(2)

A

A

B

三

解説

「夕」と体言（名詞）で終わっている。

2

B

解説

四句目が八音で、定型より一音多い。

(2)

四

ひとつゆうやけの／いろにそまりて

「つばくらめ／そらとびわれは／みずおよく／

句に分けると次のようになる。

解説

短歌をすべてひらがな（音）に直して五つの

結句…七

P.106

1

四章

詩

たしかめよう

完成問題①

1

ア

解説

現代の言葉（口語）が使われ、一行の音数に決まりがなく自由なリズムで書かれている。

(2)

ア

解説

3行目に直喩法、8・9・10・11・14行目に擬人法、6行目に倒置法が使われている。体言止めは、行末を体言（名詞）で終わらせる表現技法で、この詩では使われていない。

(3)

7

(行目)

(行目)

解説

バスの中から「虹の足」がどのように見えるか説明している部分を探す。

(4)

ウ

P.105

2

1

解説

「足乳根」と答えないように注意する。

いちのはつのは

今年ばかりの春

をを表す。

3

(2)

(3)

(1)

解説

全体が青色の中で、ぽつんと一つ白色の白鳥が漂う情景を思いうかべよう。

(2)

(1)

(3)

(1)

イ

空

海

青

白鳥

白

「空」と

「海」は順不同

P.107

解説

20・21行目で「バスの中の僕らには見えて／村の人々には見えないのだ。」とある。

(5)

③ 村の人々

④ バスの中の僕ら

(6)

イ

解説

バスの乗客が、村に虹がかかったのを見てどのよう
に感じているかを想像しよう。村の人々は、虹が見え
ずさわろうともしないが、離れたところから虹を見る
バスの乗客にとっては、なぜあんなに近くにあるのに
さわろうとしないのか、教えてあげたいほど感動して
いるのである。

(7)

他人には見えて自分には見えない

解説

この詩の中の「虹の足」とは、「幸福」を象徴してい
る。私たちは、当たり前のように「幸福に生きている」
ことで、自分が、今、幸福なのだと思えない。幸福
であることを当たり前に感じてしまっているのだ。そ
のことを、「虹の足」が見えない「村の人々」にたとえ
て表現している詩である。

P.108

四章

詩

たしかめよう

完成問題②

(1)

G

解説

Gは「五・七・六・七・七」になっている。「しゃ・
しゅ・しょ」などの拗音は一字に数えるので、Hの初
句「観覧車」は五音である。

P.109

(2)

C 四 D 四 E 三

解説

歌の中で、意味や調子の切れ目になっている箇所を
探す。

(3)

C・H・I (順不同)

解説

体言(名詞)で終わっている歌を選ぶ。

(4)

ウ

解説

「君に待たるるこちして(君がわたしを待っている
ような気がして)」に着目する。

(5)

しんしんと(しんしん)も正解。

解説

「しんしんと」は、夜ふけの静けさを表すとともに天
から聞こえてくるようなかえるの鳴き声を表している。

(6)

① I ② F ③ D ④ C ⑤ E

⑥ H ⑦ A ⑧ G ⑨ B

解説

②の「色の対照」は、Fの「草わかば」の緑と「色
鉛筆の赤き粉」を表している。⑥の「対句」は、Hの
「君には一日我には一生」の部分である。

書いてみよう

例

I

「寒いね」という言葉を交わし合うことによって、心に
「あたたかさ」が生まれる。人とのつながりの大切さ、
ありがたさを感じさせる歌だと思った。(六十八字)

P.110

確認

- ★ ① いう ② かい ③ あお

④ いなか

1

- ① かわ ② いえ ③ しお ④ やまい

⑤ おもう ⑥ とおる ⑦ わざわい

⑧ いる ⑨ こえ ⑩ おる

2

① はじ ② あずき

3

① かん ② ほんかん

4

① あつぱれ ② 促音の「つ」は、小さい「っ」に直す。

5

① もうす ② きゅうと ③ きょう

6

① 歌詠みけん ② 月照るらん

7

① かい ② きょうと ③ きょう

8

① かい ② きょうと ③ きょう

9

① かい ② きょうと ③ きょう

10

① かい ② きょうと ③ きょう

11

① かい ② きょうと ③ きょう

12

① かい ② きょうと ③ きょう

13

① かい ② きょうと ③ きょう

14

① かい ② きょうと ③ きょう

15

① かい ② きょうと ③ きょう

16

① かい ② きょうと ③ きょう

17

① かい ② きょうと ③ きょう

18

① かい ② きょうと ③ きょう

19

① かい ② きょうと ③ きょう

20

① かい ② きょうと ③ きょう

21

22

23

P.113

確認

- ★ ① ように ② おかしけれ

③ といつて ④ ひょうど

1

① といつて ② つがい ③ よつぴいて

2

① よろず ② なん

3

① といつて ② といつて ③ といつて

4

① といつて ② といつて ③ といつて

5

① といつて ② といつて ③ といつて

6

① といつて ② といつて ③ といつて

7

① といつて ② といつて ③ といつて

8

① といつて ② といつて ③ といつて

9

① といつて ② といつて ③ といつて

10

① といつて ② といつて ③ といつて

11

① といつて ② といつて ③ といつて

12

① といつて ② といつて ③ といつて

13

① といつて ② といつて ③ といつて

14

① といつて ② といつて ③ といつて

15

① といつて ② といつて ③ といつて

16

① といつて ② といつて ③ といつて

17

① といつて ② といつて ③ といつて

18

① といつて ② といつて ③ といつて

19

① といつて ② といつて ③ といつて

20

① といつて ② といつて ③ といつて

21

① といつて ② といつて ③ といつて

22

① といつて ② といつて ③ といつて

23

① といつて ② といつて ③ といつて

24

① といつて ② といつて ③ といつて

25

① といつて ② といつて ③ といつて

P.116

1

【解説】「ぞ・なむ（なん）・や・か・こそ」の助詞があると、文末は終止形ではなく、別の活用形（連体形あるいは已然形）となる。このきまりを「係り結び」という。

(1) がを

(2) がの

(3) いいかげんな気持ち

(1) a ア b ア c イ d ア e ウ

【解説】

聖海上人^{せいかいじょうにん}が、出雲神社^{いずも}の獅子^{しし}と狛犬^{こまぬ}の立ち方が、つうと違^{ちが}っていたことに感激して、人々にそれを語り、神官^{じんくわん}にわけをたずねる。

(2) 獅子 狛犬 背中を向け合って 感激

（「獅子」と「狛犬」は順不同。「感激」は、「感動」なとても正解。）

【解説】

文章の初めに書かれた獅子や狛犬の様子、それを見た聖海上人の様子に着目する。

(3) ウ

【解説】

聖海上人が感激したのは、獅子と狛犬の立ち方であるが、そのことについて説明した神官の言葉に着目しよう。神官は、「さがなきわらはべどもつかまつりける（いたずらな子どもたちがいたしました）」と説明している。

P.117

2

P.119

2

【解説】

(2) ぞける

【解説】主語を示す「が」を補う。

(1) ア

「とぞ言ひける」の「ぞ」。係り結びになるのは、

P.118

1

【解説】

(1) c

現代語訳を参照しながら「の」の意味を考えよう。cは主語を表す「の」で、「住む人がいるからだろ」という意味である。a・b・dは、いずれも、「緑の葉」のように、下の体言を修飾する語を作る「の」で、現代語訳中の空欄には、そのまま「の」が入る。

(2) ① イ ② ア

【解説】

①…「つゆ……なし（打ち消しの言葉）」で、「少しも（全く・全然）……ない」という意味。

②…「あはれに（基本形は『あはれなり』）」は、しみじみとした感動などを表す。

(3) イ

【解説】

「少しことさめて」は、「少し興ざめして」という意味。山里のものの寂しい様子で住んでいる家に情趣（しみじみとした味わい）を感じていたが、その家にあつたみかんの木にさくがあるのを見て、興ざめしたのである。「興ざめ」は、風情などがあつておもしろがっていたものが、つまらなくなること。

P.124

1

(1) (2) (3)

ウ ウ ア

おのこ

b こずえ

解説

高名の木登りが説明している言葉に着目しよう。
「過ちは、やすきところになりて、必ずつかまつることに候ふ（失敗は、簡単な所で、必ずいたすものでございます）。」と説明している。

P.125

2

(1) (4)

ア a

ようよう

b なお

解説

「a」やうやう (naunau) ↓ 「ふよう (yōyō)」

(2)

ア

解説

アは「の」のままの意味。イゝエは「が」の意味。

(4) (3)

エ ウ

解説

「雪の降りたるは言ふべきにもあらず（雪が降り積もっているのはいうまでもない）」とあることに着目する。雪が積もったときはもちろん美しいと言っている。

書いてみよう

例

私は、秋が好きです。特に、晩秋のころ、山全体が紅葉で色づいた美しい景色を見るのが好きです。（四十五字）

P.126

1

(1) (2)

ア a

まいらせん

b なんじ

解説

直前の「我が子の……美麗なりければ」に着目。

(3)

イ

解説

「名のらずとも、首を取つて人に問へ。見知らうずるぞ。」に着目。人に聞けばわかるというのだから身分が高い人物である。

P.127

2

(1) (4)

ウ 係り結び

解説

深・心・金・簪（順不同）

(2)

「深（シン）」「心（シン）」「金（キン）」「簪（シン）」と、「心」で韻をふんでいる。

(3)

ア

解説

都是破壊されたが、山や河はあり、草木が茂っているとうたっていることから考える。

(4)

別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

解説

「レ点」は、下から上へ一字返って読む符号。

(5)

イ

解説

戦争は長く続き、家族と離れ離れになったままで老いていく自分の身を嘆いている。